中国・リンホウ村ワークキャンプ報告

フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関東委員会　2002.12.15　早稲田奉仕園

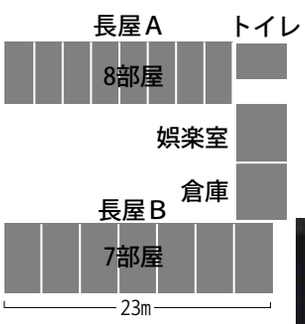
キャンプ地：　広東省潮州市潮安県古巷鎮リンホウ村
日程：　2002 年 10 月 31 日～ 11 月 18 日
中国側参加者：　朱佳栄（マーク）、呉欧宏（ジェイソン）、徐中茂（ハマー）、ツァイ＝ジーシャン（ジル）、フェン＝リーファン（ウィンディー）、蘇敏（スカイ）、パン＝シュウカン（デリク）、陳秀華（アマンダ）、リトル、シエ＝シュウチュン（シャロン）
日本側参加者：　島倉陽子、西尾雄志、原田僚太郎、藤澤眞人、枡田香織、松村泉

第 1 回中国ワークキャンプは 11 月 1 日から 17 日、広東省潮州市潮安県古巷鎮リンホウ村にて開催され、中国人学生も参加してトイレを建設した。今回のキャンプでは、スタッフが立てた 3 つの目標―（1）村人との良い関係を築くこと、（2）ワーク（水洗トイレ）を完成させること、（3）その過程に中国人学生を巻き込むこと―を達成し、次回以降のキャンプの土台をつくることができた。

また今回のキャンプでは、最終日の前日、村人全員に対してアンケートを実施し、「コ」の字型長屋の建設計画（集会所・倉庫・共同台所・新家屋・水道）の必要性に関して再調査した。これにより、ワーク計画の意義をあらためて確認することができた。再調査をした理由は、約 3 週間村で生活し、村人の生活を目の当たりにするうち、「コ」の字計画によってもたらされるかもしれない弊害は、その利益を上回るのではないかとの疑問をもったからだ。

この聴き取り調査を村人 1 人 1 人に行ったことによるもう 1 つの大きな収穫は、中国人の学生がハンセン病問題を自分たちの問題として考えるようになったことだ。はじめは主に通訳係として村人の話を聞いていた彼らは、次第に村人の話にのめり込み、じっくりと村人の要望を聴きはじめ、通訳という任務を忘れることさえあった。この中国の学生たちは、FIWC の帰国後も村での活動をつづけることになっている。

長屋Ａ（８部屋）には断熱システムを設置し、夏に暑すぎるという問題を改善



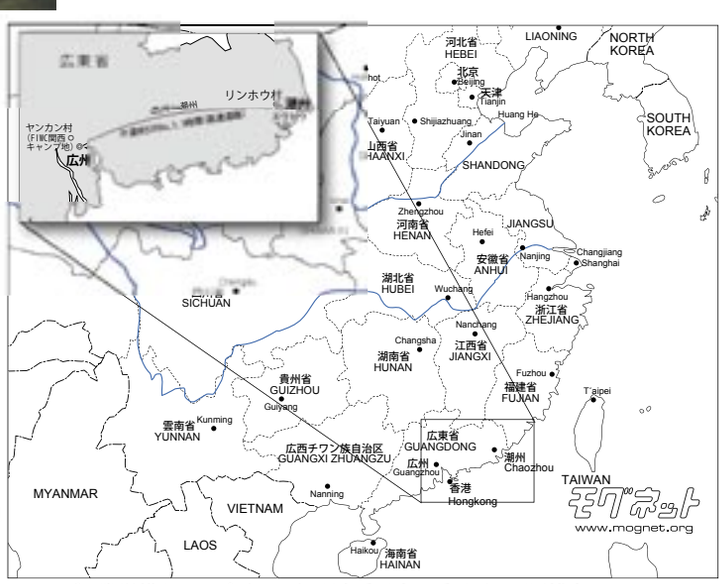
村人 14 名が 1 人 1 部屋でまとまって住むことができる、23m 四方の「コ」の字型の長屋

倒壊のおそれがある長屋Ｂを取り壊し、長屋Ｂ（７部屋）を建設

完成したトイレの便器のようすを見る枡田香織さん。「私はトイレキャンプしか行かないっ！」

キャンプ日程

10 月 31 日（木）	広州到着。ゲストハウスへ。
11 月 01 日（金）	リンホウへ。
11 月 02 日（土）	業者と交渉。台所づくり。
11 月 03 日（日）	ワーク開始：基礎づくり、レンガ積み。
11 月 04 日（月）	ワーク：レンガ積み。
11 月 05 日（火）	村人をパーティー（9 日）へ招待。
11 月 06 日（水）	ワーク：コエダメとレンガ積み終了、壁塗り。
11 月 07 日（木）	フリーデー：古巷へ。
11 月 08 日（金）	村人の生活費支給日。ワーク：断熱材ワーク。
11 月 09 日（土）	パーティー。
11 月 10 日（日）	中国人女子大生が餃子を村人に配る。中国人学生 8 人がワークに参加。建設業者と値下げ交渉。
11 月 11 日（月）	西尾さん到着。
11 月 12 日（火）	ワーク：便座・排水パイプ設置。
11 月 13 日（水）	ワーク:トイレ完成記念パーティー。ディスカッション:ワークの必要性。
11 月 14 日（木）	フリーデー：潮州市に滞在。
11 月 15 日（金）	ディスカッション：ワークの必要性に関する調査の項目の検討。
11 月 16 日（土）	最初で最後の雨。ワーク計画の必要性に関する調査。
11 月 17 日（日）	広州へ。
11 月 18 日（月）	帰国



フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関東委員会　委員長：西尾雄志
編集:茂木亮（茂木新聞社）、原田僚太郎（茂木新聞社社会部部長、2003 年春～中国駐在予定）